



チャールズ・スタイル氏

Q1

お仕事は何をしていらっしゃいますか？

在沖縄米陸軍トライ基地で第10支援群の広報官を務めています。

Q2

どのようなボランティア活動に携わっていますか？

沖縄におけるスペシャルオリンピックス活動を支援しています。知的発達障害のある人々にスポーツの練習

や競技会の機会を提供することにより包み込む社会を高める活動です。この活動に関わって11年目になります。私の日々の生活の中で、終始スペシャルオリンピックス活動のことを考えているものですから、こんなに時間がたっていたのかということに驚いています。

Q3

具体的にどのようなことを手伝っていますか？

主に、嘉手納スペシャルオリンピックス（SO）活動を推進するための寄付のお願いや、資金造成活動を担当しています。多くの人々から寄付金や協力を受けとる度に、私自身が謙虚な気持ちにさせられます。有難いことに毎年何とか資金を集めることができ、そのお陰で過去10年間、嘉手納スペシャルオリンピックス大会を毎年開催することができました。更に、SO日本主催の夏季・冬季国内大会やSO国際本部主催の世界大会へも沖縄からアスリートを派遣できました。

CHIP-SAN!

これは大変幸運なことです、昨年沖縄のアスリート6名、コーチ2名がSO日本選手団に選ばれ、米国アイダホ州ボイジャーで開催された2009年冬季SO世界大会へ出場できました。フロアーホッケーの試合で沖縄のアスリートが世界各地から参加したアスリートと競いあうことができたこと、更に、日本代表チームが金メダルを獲得したことに驚きと賞賛の気持ちで一杯です。アスリートの努力はもちろんですが、選手を送り出すために練習を支援してくれたコーチ、資金面で援助してくれた企業関係者 個人、多くの人々の支援が集結した力の表れだと思います。アメリカ人も日本人も一緒にになって、一年を通じたSO活動へ共に歩む姿をずっと見て参りました。「アスリートたちがスポーツ競技で一生懸命頑張る力を發揮できる」場を提供するという一つの目標に向かって、寄付金集めや、時間や労力の提供などさまざまなボランティア力が結集するSO活動に感動しています。

Q4

沖縄にはいつごろいらっしゃったのですか？

1999年に沖縄に来ましたが、私は無職でした。（妻の扶養家族として沖縄入りしています）沖縄へ来てまもなく、嘉手納基地の第18航空団広報局にボランティア（無償）で仕事の手伝いを始めました。取材記事を書いたり、スピーチを書いたりして。そのほかにもいろいろボランティアをしました。



Q5

相当な時間ボランティアで働いたときいたのですが

そうですね。およそ1600時間のボランティア（無償勤務）時間という記録をうちたてました。これはまだ破られていないそうですが、空軍本部レベルの優秀ボランティア賞を受賞しました。当初広報局の事務所で、毎日事務所に来て無給で仕事をする私を奇異な目でみるある職員がいました。その人とはその後10年来の友人となり、共にSO活動を進める仲間となつたわけですが。このようにしてスタートした私の沖縄ライフですが、この10年余り、「アスリートのために」という目標のもと、様々な米国人、日本人と出会いがあり私にとって大切な財産になっています

(インタビューは次ページへ続く)

CHIP-SAN!
CHIP-SAN!



BRIDGING CULTURES



(前ページより続き)



Q6 どういうきっかけで嘉手納SOに関わったのですか？

米国でSO大会を手伝ったことがあります。10年前、嘉手納SOの会場設営を手伝いに行つたとき、開会式の段取りを計画している人たちを見て、彼らはスペシャルオリンピックスを全くわかっていないということを知り愕然としました。つまり、SOというのは単に人々がパレードに参加して、観客が拍手喝采で迎えるだけのお祭りイベントではないということです。SOとは知的障害のある人たちが一年をとおしてスポーツの練習をし、できる限りの力をだしきり真剣に競争することにあるのです。そのような機会を創り提供することが支援者の仕事なのです。あの日以来沖縄のSO活動に深く関わりました。

Q7 寄付金集めは大変だったのではないかですか？

企業の支援には驚嘆すべきものがあります。（株）日本マクドナルドから、毎年多大なる支援を頂いています。信じられないくらい素晴らしいご支援です。（株）日本トイザラスはコンテナー一杯の玩具を贈ってくれました。（株）コカコーラ、P & G、（株）アメリカンエンジニア、嘉手納町、沖縄市の業者の方々。企業だけでなく、団体、たとえばAWWA（米国婦人福祉協議会）また空軍のみならず、海兵隊、海軍、陸軍と各軍から多大な協力支援を得ています。若い軍人達が一生懸命走って募金活動をしたり、また司令官らは強いリーダーシップを發揮し、信じられないほど素晴らしいSO活動が展開できています。いつか、私が沖縄を離れる日が来て、ハワイあたりで静かに余生を過ごすとき、沖縄のスペシャルオリンピックス活動が今よりも更に充実した活動になることを願っています。

Q8 地元のSO活動も応援しているとうかがいましたが

現在、SO日本・沖縄の副会長を務めています。直接地元の方々と仕事をするなかで文化の違いを感じながらも興味深い経験を楽しんでいます。

考へても見てください。沖縄で生まれ、知的障害があり支援を必要とする人々が、SO活動に出会い、ボランティアの力に支えられ、アスリートとして国内大会や世界大会へ出場できるのです。沖縄以外の場所へ、長野、熊本、山形、あるいは中国やアメリカを訪ねる機会もあるのです。沖縄のアスリートにとってすごい経験になると思います！

私は、写真を撮るのが好きで、SO活動でもボランティアカメラマンを務めています。これまで数千枚の写真をとりました。アスリートたちは私のことをカメラマンだと思っているようです。

Q9 SO活動の魅力は何でしょうか？

この活動の源は、ヒューマニティ（人間愛）につきると思います。一人一人が集まつたとき何ができるのか、アメリカ人・日本人を問わず、人々が団結したとき素晴らしい力を發揮することができます。私は日本語を話すことができません。しかし多くの日本の方々に寄付のお願いをしました。言葉は通じませんが、私のパッション（熱意）は伝わっているのではないかと思います。



(写真提供：嘉手納スペシャルオリンピックス実行委員会)

Kadena RAPCON Reverts to Japanese Control

嘉手納*ラップコン業務、 日本側へ引継ぎ

米軍から日本政府への管制業務移管を象徴する意味で、嘉手納基地航空管制小隊長ブルック・ケリー大尉から室谷管制保安部長へ、管制官の大好きな道具であるヘッドホンを手渡した。



(米空軍：ジャービー・ワレス上等兵撮影)

1945年4月1日米国が沖縄の空域管制を開始して以来、およそ65年間米軍が担ってきた沖縄周辺上空の進入管制業務が終了し、2010年3月10日、その業務が日本国政府に移管されました。この歴史に残る業務引継ぎ式が那覇航空交通管制部にて執り行われ、米軍を代表して在日米軍副司令官ジョン・トゥーラン少将、嘉手納基地第18航空団司令官ウイルズバッカ准将他、また、日本政府から国土交通省航空局管制保安部長、室谷正裕氏他関係者多数が出席しました。

1972年沖縄の施政権が米国政府から日本政府へ返還されたとき、嘉手納飛行場及び那覇空港周辺の航空管制業務は一箇所に限定して行われるという取り決めが両国でなされ、同業務は嘉手納基地の部隊が担当することとなりました。2000年、当時の米国国務省ウィリアム・コーエン長官が米軍の運用業務遂行が満たされることを前提に進入管制業務を日本政府へ移管することを合意し、2004年12月から嘉手納基地内の航空管制官らが日本政府の航空管制官たちに管制業務移管をめざした訓練を開始し、一步づつその実施に近づいていきました。



(米空軍：アーロン・ジョンソン兵長撮影)

長年移管作業に関わってきた米側管制官ゲイリー・ブラウン氏は「これからは日本政府の管制官が沖縄周辺空域全体の管制業務の責任者となります。ただし、米軍が予め計画している空域使用の時間帯に米軍機が嘉手納飛行場及び普天間飛行場へ着陸する場合、米軍属の管制官が那覇航空交通管制室で管制業務を行うことになります。」

管制業務が米国から日本国政府へ移管されるということは特筆すべき変化ですが、どの管制官にとっても、大切なことは、沖縄の空を出入りする航空機に安全で効率のよい管制業務を提供することにあります。

トゥーラン少将は「当に日米安保条約改定後50周年を象徴する出来事であり、関係者のこれまでの努力が実った功績であります。世界中のどこにも米国と日本ほど協力的精神を享受してきた国はありません。私たちは過去50年間様々な事柄とともに取り組んできました。今回の航空管制業務の移管は両国の同盟関係を更に深める第1歩となります。」と挨拶に述べていました。

(第18航空団広報局ハッチソン少佐記事、抜粋訳)

*ラップコン (RAPCON Radar Approach Control) 航空機進入管制業務

N C O A C A D E M Y



(米空軍：クリッシャー・ペストー等軍曹撮影)



(米空軍：クリッシャー・ペストー等軍曹撮影)



(米空軍：クリッシャー・ペストー等軍曹撮影)

嘉手納基地に所在する下士官学校(NCO Academy)は、太平洋地域にある唯一の空軍下士官学校です。太平洋地域の空軍基地から、1等軍曹の階級にある下士官(Non-commissioned officer /NCO)の隊員が入校しています。学生の大半は空軍の隊員ですが、海軍、陸軍、海兵隊からも数名の交換学生が入校することもあります。上級下士官に昇格するためには同学校を卒業することが義務付けられており、在沖米軍基地以外から来た「学生」は寮に宿泊しながら通学します。約6週間のスケジュールが組まれ、月曜日から金曜日の午前7時から午後4時までの間に集中講義が開かれ、リーダーとしての心構え、部隊管理法、コミュニケーションスキルなどを学びます。この下士官学校の他に、嘉手納基地には兵長(Senior Airman)が入校する航空兵リーダーシップ学校(Airmen Leadership School)もあります。その他、空軍の下士官のための教育機関として、先任曹長(Senior Master Sergeant)が入校する上級下士官学校(Senior NCO Academy), 上級曹長(Chief Master Sergeant)が入校する上級曹長リーダーシップ課程(Chief Leadership Course)などがあります。これらの下士官教育機関は、アラバマ州マクスウェル空軍基地にあるアメリカ空軍大学(Air University)のバーンズ下士官教育センター(Barnes Center for Enlisted Education)に直属しています。

下士官の階級

Airman (E-2)	1等兵
Airman First Class (E-3)	上等兵
Senior Airman (E-4)	兵長
Staff Sergeant (E-5)	2等軍曹
Technical Sergeant (E-6)	1等軍曹
Master Sergeant (E-7)	曹長
Senior Master Sergeant (E-8)	先任曹長
Chief Master Sergeant (E-9)	上級曹長



NCO Academy



(米空軍：ジャービー・ウォレス上等兵撮影)